

部員たちの活動で 「びらとり」の魅力を発信!

瀧 達成さん (たき たつなり)
びらとり農業協同組合青年部 部長



青年部長の瀧さん

取材風景



農山漁村における地域の活性化や、個性的で魅力ある地域づくりの優れた活動を紹介するシリーズ。

今回は「わが村は美しくー北海道」運動第6回コンクールで優秀賞、第8回奨励賞を受賞した「びらとり農業協同組合青年部」の瀧部長、高泉事務局にお話を伺いました。

《生産出荷量全道一トマトの町》

平取町は北海道日高地方の西端に位置し、緑豊かな自然に囲まれ、基幹産業は農業が中心です。トマトやお米、酪農など複合経営で農家を営んでいます。また、北海道の中でも冬は降雪量が少なく、夏は涼しい気候のためトマト栽培に適しています。ビニールハウスでの生産により1月末から11月頃までの長期間の安定した出荷が可能です。出荷量は全道一で、主に関西や関東方面に出荷されています。1987年、びらとりトマトは「ニシパの恋人」というブランド名を付け販売され地域に定着しています。

《少しでも農業に興味を》

青年部は1975年に地域の農産物の生産者が中心となり設立され、現在約20名で活動しています。部員はトマト農家の方が多く、そのほか畜産家やイチゴ農家の方で構成しています。主な活動は、食育活動、P R・販売促進活動、日高胆振地区の合同勉強会などです。

食育活動は、教育委員会や自治体と連携をとりながら、地元の小学生を対象に一年を通して田植えから収穫そして試食まで、お米について農業体験を行い、食べ物大切さや食物を作る喜びなどを学ぶ活動をしています。今年イチゴ狩り体験を行いました。



また、大学生の農作業体験や選果工場・加工工場の見学会を実施し、農業のすばらしさを伝えています。

P R・販売促進活動では、地域のイベントに積極的に参加して、直接、消費者の方と交流し対面販売を行ったり、最近ではS N Sや動画コンテストを利用し、消費拡大につながるよう発信しています。



小学生の農業体験

《びらとりという名前を》

びらとりトマトは、1985年に「桃太郎」という品種に統一しました。接ぎ木をしない自根栽培で本来のトマトの食味を大切にするなど、こだわりを持って生産しています。できるだけ病気に強くするための品種改良、土壌づくりの勉強会や研修会は、部員同士の意見や情報交換の場になり、日々の作業の励みにもなっています。

このように、新鮮で美味^{おい}しい生産物を全国へ届けられることが、部員一人ひとりの“誇り”になっています。この想いを次世代につなげて、地域の活性化、農業の発展に努めて活動していきたいです。

当協会ホームページ、「わが村は美しくー北海道」運動第1～9回受賞団体の活動概要をまとめた冊子『生産空間の活性化に資する地域事例集』をご覧ください。

